

「ロータリーにおける Service の現代的意義」

2012.2.8 高萩 RC ロータリー情報・研修委員会

ロータリー情報 10 分間のコーナーも先月の「ロータリーの危機」で、ロータリーの奉仕に対する考え方の変遷を一通り見てきました。

今回は、一寸古いのですがサービスについての面白い新聞記事がありましたので参考までに紹介します。併せてその延長でロータリーについていろいろ考えてみます。

<次の行から、(1. 新聞記事からサービスについて分析した例) と 2 P の (2. ロータリーの魅力と可能性) までは、2009.9.6 発行第 2840 地区研修委員会の「ロータリーの基本」から引用>

「サービス」という言葉は、日本では「値引き」「おまけ」「無料」などの意味で使われることが多く、また、「商品」に対して人的労力の提供を「サービス」と呼んでいます。

一方、ロータリーにおいては、「サービス」を、その最も広い意味で使っています。すなわち、一言で纏めると

「社会に役立つ価値を提供すること」

「世のため人のために尽くすこと」 ということでしょう。

ロータリーは、事業及び専門職務の代表者の集まりですから、その「サービス」はまず自らの職業で発揮されることとなります。それを「職業奉仕」と呼び、自らの職業のサービス・レベルを高め、社会に貢献できるように努めることが、ロータリアンの最優先課題と言っても良いでしょう。

1. <新聞記事からサービスについて分析した例>

朝日・読売・日経の各新聞が、2009 年 1 月 20 日米国のオバマ大統領の就任演説の日英対訳を掲載していました。その演説の中に 3 か所、Service という言葉が出てきます。

現代の米国での Service という語の使われ方がよくわかるので紹介します。

(1) 一つは狭義のサービス。「商品・サービス」(good and service) と「商品」という言葉と対にして使われています。日本語訳でも訳しようがないので、「サービス」とカタカナ表記していません。アメリカの経済状況を再生させるために働くという中で出てきます。

(Our minds are no less inventive, our goods and services no less needed than they were last week or last month or last year. 私たちの創造性が低下したわけでもなければ、先週や先月や去年に比べてこの国の商品やサービスに対し必要性が減ったわけでもない。)

(2) 二つ目は、演説の冒頭で、ブッシュ大統領に敬意を表して “I think President Bush for his service to our nation” 「私はブッシュ大統領のわが国への奉仕に感謝する」。

朝日新聞はここを奉仕と訳さず、「我が国に対する**貢献**」としています。英語の **Service** には、「奉仕」という日本語では伝わらない、「貢献」や「献身」の意味が含まれていることが分かります。

(3) 三つ目は、演説の後半、我々は過去のアメリカをつくり守ってきた英雄と同じように “the spirit of service” 「奉仕の精神」を持つべきだと訴えています。そしてその「奉仕の精神」とは、「自分自身よりも大きな何かの中に進んで意味を見出す意思」と言い換えています。

(We honor them not only because they are guardians of our liberty, but because they embody the spirit of **service** : a willingness to find meaning in something greater than themselves. 兵士たちを称えるのは、私たちの自由を守ってくれるからだけではなく、**奉仕**の精神を体現しているからです：自分たちよりも大きな何かに意味を見出そうという、その意思のことです。)

この三つ目は、ロータリーの広義の Service 「世のため人のために尽くす」と重なっていると考えられます。

2. <ロータリーの魅力と可能性>

どこにロータリーの魅力を感じるかは人それぞれで、新会員とベテラン会員とでは、ロータリーに対する意識や関わり方も違うでしょう。

次に、**魅力**をいくつか挙げてみます。

- ①ロータリーの「奉仕の理念」は、現代社会にも有効な普遍的な力を持った理念で、会員企業がこの奉仕の理念を事業に正しく適用すれば、顧客に支持・信頼される企業に成長することが出来ます。最近流行の「コンプライアンス（法令遵守）」や「CSR（企業の社会的責任）」と言う言葉を持ち出さなくても、ロータリーの奉仕の理念を実践することが、企業の発展につながります。
- ②例会での「奉仕の心の研鑽」と「奉仕の実践」を通じて育まれる“Fellowship”（仲間・同志としての連帯、友情：「親睦」）は、あなたの人生で何者かにも代えがたい財産となります。
- ③職業分類制度によって多様な職業人が集うRCは、もともと異業種交流会の性格を持っています。あなたは様々な分野の異業種の知恵に気軽に接することが出来ます。
- ④米山梅吉翁が例会は「人生の道場である」と言ったように、RCは私たち多忙な職業人が「学習する場」として貴重です。ロータリアンとしての学習に終わりはありません。年齢を重ねても、常に「成長」している実感を味わうことが出来ます。
- ⑤ロータリーのネットワークは、国や職業、宗教、人種、性別を問いません。他クラブへのメイク・アップや友好クラブとの交流、WCS、地区行事、国際大会等への参加を通じて、地区内外、国内外のロータリー・ネットワークを広げましょう。

ロータリーは現代社会に対してどのような力を持っているのでしょうか。世のため人のための役

立つ価値をロータリーは持っているのでしょうか。

ロータリーの**可能性**、すなわち「ロータリーは何が出来るのか」という問いは、「私たちロータリアンは何をなすべきか」という問いと置き換えることができます。

- ①まず、私たちは、ロータリーの奉仕の理念を適用して、自らの職業のサービス・レベルを高め続けなければなりません。そして、自らが属する地域社会の発展を後援しましょう。
- ②魅力あるクラブをつくり、ロータリーの理念に共鳴する仲間を増やしましょう。ロータリーの世界ネットワークを通じて、国際理解と世界平和への寄与もできるでしょう。
- ③ロータリアンであることは、一つの生き方を選択したということだと思えます。ロータリーの奉仕の理念はどこか遠くにあつて仰ぎ見るものではなく、自分の個人生活・職業生活・社会生活の中に実現すべきものでしょう。
- ④ロータリーの奉仕の理念の実践が、社会の中で自分を生かす道であり、社会をより良い方向に導く強い力を持っていることを信じて、ロータリーの魅力と可能性をこれからも追い求めていきましょう。
- ⑤私たちは、ロータリーが持っている力をもっと信じて良いのではないのでしょうか。

2009～2010年度R I会長のジョン・ケニーさんの年次テーマは「ロータリーの未来はあなたの手の中に」です。私たちはこの言葉を肝に銘じなければならぬと思えます。

「ロータリーでは、私たちが如何にあるのか、如何にありたいと願うのかということすべてが、それぞれのクラブのロータリアンたちの手の中にあります。

もし、私たちのクラブが居心地よく例会がうまく運営されていれば、

もし、奉仕活動が入念に計画され役に立ってあれば、

もし、会員達の質が高く誠実で、それぞれの職業や地域社会で尊敬を集めていれば、

ロータリーは存続するでしょう。

これが、私が“ロータリーの未来はあなたの手の中に”と言っている理由です。」

3. <あなたがロータリーに入っている 10 の理由>

——ニューヨーク州ロチェスターRCのラルフ・コリンズ（神経学及び精神医学の権威）——

貴方は何故ロータリーに入ったのですか。ロータリーがこのように人々の尊敬を集め、会員が献身的な努力をし、出席を励行しているのは何故でしょうか。

①何かに所属したい欲求

人間は集団の一員であることを好むもので、人間の根底には社会の進歩に寄与したいという望がある。この群れ本能は、自衛本能、食欲、性欲とともに四大本能として知られています。

②価値ある目的に献身したい欲求

他人のために尽くすことによって、人は豊かな気持ちになります。

③交際を求める欲求

我々は実業界、職能界において自分自身と同程度の人と話し合うことを好むものです。

④人々の福祉のために努力をしている団体の一員になりたい欲求

我々の多くは薄幸の人々を助けるようにと教え込む社会的家庭環境に育ちました。

⑤世界的問題解決に役立ちたい欲求

我々は時間と精力を時代の当面する問題のために捧げることを欲しています。

⑥はけ口を持ちたい欲求

事業、家庭、社会生活などにおいて満たされないものがあります。

⑦成長し、学び、進歩したい欲求

親しく交わり、話をするうちに段々知識も増え進歩します。ロータリーは教師と学生でいっぱいです。

⑧心から親睦を求める欲求

自分自身と同じような社会的、経済的、知的レベルにある人々と心からの親睦を求めています。

⑨世界の同胞と知り合いたい欲求

ロータリーのバッジは外国でも多くの扉を開くことが出来、世界同胞意識を増進することができます。

⑩奉仕活動において指導力を発揮したい欲求

我々のあるものには潜在的に才能と指導力が与えられています。

それでは、ロータリーからどんな報酬が得られるでしょうか。自らも捧げることによって欲求を満たしているロータリアンにとってその報酬は豊かなものがあります。生き生きと活動するロータリーの効果は永続的なものであります。

その**効果**を具体的にあげてみます。

- ①地域社会でのプライドがたかまります。
- ②クラブの奉仕活動によってその地域社会が地方的、全国的に人々から認識されます。
- ③地域社会が向上します。
- ④地域社会の公共心が高まります。
- ⑤産業道徳の向上によって地域社会が一段と成長します。
- ⑥地域社会の指導力が高まります。

社会奉仕、国際奉仕、職業奉仕を通じて、ロータリアンは社会を一層住みよい場所とするために働いております。

4. <近未来の人口増にどう対応するのか、そしてロータリーの役割は>

——2011.1 第 2680 地区 P G 田中 毅氏が主宰する源流セミナーから引用——

2011 年 10 月末現在世界の人口は 70 億人 (内途上国 58 億人) であるが、国連予測によると 2050

年の人口は 93 億人（内途上国 83 億人）と発展途上国の人口爆発、先進国における少子高齢化が極端に進むものと考えられます。その結果、発展途上国から先進国の大都市への大量の民族移動が行われることが予測されます。調査機関の予測によると、大都市への人口集中は全人口の 3 分の 2 に当たると言われています。現在、人口の 2 分の 1 が都市に集まっていると言われていることからその集中度が倍増することを意味します。

ミッテラン元フランス大統領の経済顧問を務めたジャック・アタリ氏は、アメリカはこの世界的な不況で国内に目を向けざるを得なくなり、世界における影響力を失い、新興国家の発展によって世界は多極化を迎えますが、小国家分立を経て徐々に無極化の時代に突入すると述べています。

大都市では人口の爆発的増加にインフラが対応できずスラム化し、飲み水や食料の絶対量が不足するとともに、自然環境の破壊によって人類を含む動植物が生き残ることができなくなる事態さへ考えられます。厳しい冬を乗りきるためには、スラムは温帯および熱帯地方の大都市に必然的に集中することになります。

そして自由競争に打ち勝った世界的規模の巨大企業のみが生き残り、その集団が社会保障、経済、軍隊をコントロールする時代が出現するであろうと予測しています。

その優良企業集団に属さない下層階級の 50 億人が貧困や飢餓や疾病から逃れようとして、破壊や武力闘争に繋がって、結果として各地で多発的に紛争が起こり、市場を大きく混乱させたり、テロによって破壊に追いやる危険性を指摘しています。

もしも、その時に新資本主義（行きすぎたアメリカでの市場原理主義——投資ファンドの出現により、資本家対疑似資本家対経営者対労働者の対立、レバレッジの技法等による先物投資による儲けのみの追求、利益追求のみを目的としたM&Aの横行等）が世界経済を支配していれば、利益を巡る争奪戦が激化して、地球は間違いなく破滅への道を歩んでいくでしょう。

このままの状態では資源の争奪戦が続けば、21 世紀の半ばごろには地球の資源は枯渇すると予測されています。

人口爆発を抑える唯一の方法は、開発途上国における計画的出産によって人口を抑制することです。そのための現実的な方法としては、若い女性を中心とした**識字率の向上**があげられます。先進国の出生率は 2 人以下ですが、発展途上国では 5~6 人、開発途上国 8~9 人と言う出生率なのです。従って、私たちは人口問題に対して、決して逃げることなく積極的に取り組んでいくことが必要です。宗教上の戒律から産児制限に反対する国もありますが、人類が生き延びるための英知を結集する必要があります。この分野では国連とロータリーとは連動して活動していますから、ロータリーが優先して識字率向上に取り組む必要があります。ちなみに、地球上の非識字者の数は 10 億人、成人の 25% を占め、非識字者の 2/3 は女性であり、アジア人が 75% を占めると言われています。

ロータリーでは、識字率を向上させるために C L E（語学力強化研修講座）プログラム——→現在では、「識字率向上のための灯台プロジェクト——Lighthouses Literacy Project」として知られているツールを持ち各地で実施しています。これは 30 年前にオーストラリアのアポリジニ対策として、クイーンズランド大学のリチャード・ウォーカー氏（R I 第 9630 地区パストガバナー）に

よって開発され、非常に効果的な識字教育法であります。その後 1987 年から 1992 年にかけて、ロータリー財団の資金提供によりタイの初等教育に正式に採用され、引き続いて他国の RC や地区で活用されています。

かつて、シェルドンが未来を先取りした経営理論を「奉仕の理念」としてロータリーに持ち込み、ロータリアンの職業奉仕活動で資本主義の弱肉強食の経済戦争を阻止したように、企業経営の先端にいるロータリアンがリーダーシップを発揮して地球を救わなければなりません。

ロータリーの職業奉仕の理念は、「自分の利益を優先するのではなく、自らの職業を通じて社会に奉仕することによって、その見返りとして適正で継続的な利益が得られること」を説いていますから、虚業を追放して、全ての事業を「職業を通じて社会に奉仕する実業にすること」が、これからのロータリーの職業奉仕の最大の目的となるでしょう。

過日、チリで起こった鉱山の落盤事故で、3 日分しかない食料をみんなで公平に分ち合い、18 日間も生き延びたことを教訓として、地球の資源が枯渇して残り少なくなったことを自覚した時に、人々は他人のことを思い遣り、残り少ない資源を皆で分かち合わなければならないことに気づくでしょう。

利他主義で、分かち合いの心で、他人のことを思い遣り、他人のために尽くすことで、限りある資源を先延ばしすることはできるでしょう。まさしく **Service above self** の理念でしょう。

しかし、人口 70 億人の現在ですら飢餓が問題になっていますから、分かち合いの心のみでは 100 億人が生き延びることは不可能でしょう。科学技術の振興によって、人類が生き延びるために必要な食糧やその他の物質を作り出すことが必要になってきます。バイオテクノロジーや遺伝子操作によって、美味しく安全で高品質の食糧を作り出すことができれば、食糧問題はある程度解決できるのに違いありません。

これらの高度な科学技術、特に生命科学を管理するためには、ロータリーの職業奉仕理念に基づいた高い倫理基準が必要です。これらの技術を開発するための優秀な頭脳を持った人材を育成することが、将来のロータリー財団の役割になってくるのではないのでしょうか。

He profits most who serves best と **Service above self** の理念によって、われわれの地球を次の世代に引き継ぐことが、近未来におけるロータリアンの責務ではないのでしょうか。